

ますはし

「思い出しなさい」

「愛する人たち、

私たちの主イエス・キリストの使徒たちが前もって語った言葉を思い出しなさい。」

(ユダの手紙 第1章17節・新約聖書439頁)

はじめに

主イエスの弟として生まれたのはヤコブだけではありません。「兄弟はヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダ…姉妹たち」(マタイ 13:55～56)とあって、6人以上のきょうだいがいました。この手紙を書いたユダは「ヤコブの兄弟ユダ」ともあり、その4番目に出てくるユダだとされています。ヤコブ同様、十字架と復活の出来事から、主を信じる者とされました。やはりエルサレム教会で信徒を励ますなど、特別な働きをしていたようです。

この手紙では偽の救いを説く者たちに惑わされないようにとの警告と励ましが書かれており、同様の時代にある私たちも、その言葉を自分のこととして受け止めさせたいと思います。

信仰のために闘う

最初にユダは「ひとたび伝えられた信仰のために闘え」と鼓舞しています。それだけ世の力が強いからです。その例として、エジプトの地から救い出された民たちが挙げられています。せっかく奴隷から解放されても、荒れ野において彼らは神を疑い、神に背いてしまったことで、祝福を失いました。ソドムとゴモラ、カインやバラム、そしてコラの子たちは、祝福を手にすることができる立場だったのに、世の力にひかれ、滅びの道に進んでしまいました。

語られた言葉

彼らは「不平や不満を並び立て、欲望のままに振る舞い、大言を吐き、利益のために人にこびへつらう」(16) 人々だったと紹介されています。

す。私たちにはこのような傾向がないでしょうか。生活の中でこのような兆候が見られたならば、敗北濃厚な状況です。ユダは私たちに危ないぞと警告し、そして「使徒たちが前もって語った言葉を思い出しなさい」(17)と説いたのです。私たちにとって、それは旧新訳聖書全体に記してある神の言葉に他なりません。聖書は私たちに語られた言葉です。その言葉を常に心に打ち付けるように読んでいくことで、心から湧くように、光が射すように御言葉が開かれていくのです(詩編 119:130)。その御言葉に則した証しがあるならば、それは他の信徒を励ます「語られた言葉」にもなるのです。

御言葉の剣

この御言葉によって闘うのだとヤコブは言います。パウロはエフェソの手紙の中で「悪魔(この世)の策略に立ち向かえ」と勧め、神の武器を身に着けるようにと、その内容を記しています。注目すべきはその6つのうち、攻撃する武器は「霊の剣、神の言葉」のみなのです。

私たちの信仰生活はこの御言葉をどれだけ多く持っているかによって過ごし方が全く変わってきます。私たちが信仰の上に自らを築き、聖霊によって祈り、神の愛の内に自らを保ち、憐れみをいただいて、永遠の命を目指す。その中で、闘いに必要な語られた言葉、神の御言葉の剣を手にして、世の力への勝利を重ねていくのです。

【礼拝説教はスマホでも視聴できます】
右記のQRコードを読み取ってアクセスしてください。



今週の祈り

「愛する人たち、私たちが共にあずかっている救いについて書き送りたいと、心から願っておりました。あなたがたに手紙を書いて、聖なる者たちにひとたび伝えられた信仰のために闘うことを、勧めなければならないと思ったのです。…愛する人たち、私たちの主イエス・キリストの使徒たちが前もって語った言葉を思い出しなさい。…あなたがたは最も聖なる信仰の上に自らを築き上げ、聖霊によって祈りなさい。神の愛の内に自らを保ち、永遠の命を目指して、私たちの主イエス・キリストの憐れみを待ち望みな



さい。」(ユダの手紙 1:4、17、20～21)

信仰を持って行くと、普通に生きているよりも苦難が多くなるように思いますが、そう見えるのは、すでにこの世の力に丸め込まれ、妥協をし、また心が悪魔に奪われているからです。私はこの信仰のために闘います。与えられたこの救いを感謝し、そして前もって私に語られている神の言葉を思い起こし、それを武具として手に取って、闘います。御言葉がすばらしい力を持っていることを信じます。どうぞ、私の信仰の闘いをお支えください。御名によってお祈りいたします。アーメン。

深読みにチャレンジ!

箴言 (73) 第3章35節

*三つの違う訳を読み比べてみましょう。

◎協会共同訳 「知恵ある人は誉れを受け継ぎ 愚かな者は恥を増す。」

◎口語訳 「知恵ある者は、誉を得る、しかし、愚かな者ははずかしめを得る。」

◎新改訳 「知恵のある者は誉れを受け継ぎ、愚かな者は恥を得る。」

「嘲る者を嘲る」

連続していた対句は、「曲がった者」と「まっすぐな人」、「悪しき者の家」と「正しき者の住まい」、「嘲る者」と「へりくだる人」と表現され、主はいずれも後者を祝福するのだと教えられています。この節には「主がなされる」との言葉はなく、当然、主の祝福があつてのことなのですが、「知恵ある人」と「愚かな者」が、それぞれどのような人生を送るかが明示されている、この一連のまとめのような言葉だと言って良いでしょう。

32～34節は「悪」と「善」の順で対比しているのに、この節は「善」が語られ、その後で「悪」が語られています。意図しているのかはわかりませんが、10章などは「善」「悪」、12章は「悪」「善」なので、一貫していないことだけは確かです。ただ、一連のつながりの中では、順が逆になることはありません。ですから、そのような

【神からの知恵によって生きる】

箴言はソロモンが語った知恵の言葉を中心に構成されています。31章から構成されていますが、あたかも短編を読んでいるかのように、種々雑多な知恵の言葉が連なっています。ソロモンが思いつくままに語った言葉を、そのまま筆記したのではないかと思えるほどです。

この書このような性格上、まとめて解説するのが難しいため、この欄で、一つ一つの言葉をじっくり味わいたいと思います。箴言から得る知恵によって、深みのある生き方を学び、よりよい人間関係を築かせていただきたいと思います。

- 1 父から子へ・受け継がれるべき知恵 (1:1～9:18)
- 2 生活の処方箋・知っておくべき知恵 (10:1～22:16)
- 3 先人からの知恵 (22:17～31:31)
 - a 知恵ある人の言葉 (22:17～24:34)
 - b ソロモンの言葉 (25:1～29:27)
 - c アゲルの言葉 (30:1～33)
 - d レムエルの言葉 (31:1～31)

観点から言っても、一連の中で順を逆にしているこの35節は、まとめの役割を果たしていると思います。

もう一点、「悪」には「者」が、「善」には「人」が使われています。この訳し方は協会共同訳の箴言では一貫しています。ヘブライ語にはこの区別はありません。考えてみると、「あなたは親切な者ですね」とは言いません。「親切な人」です。「人」には「者」よりも、その人の人格や尊厳を認めている指向性があるようです。恐らく、翻訳者はその部分を大事にしたのでしょう。

聖書日課

毎朝、決められた時間に聖書を読み、お祈りをするのはクリスチャンの生命線です。この聖書日課を使って心の糧を欠かさないようにしましょう。そのために最低でも15分間を神との交わりのために聖別してください。

朝にどうしても時間のとれない方は、昼休みでも就寝前でもかまいません。ぜひ、実行してください。

【祈りの時の持ち方(例)】

- ①まず黙想し、次に、自分の心を神に向けるために賛美する。賛美曲を歌えない場合は、歌詞を味わう。
- ②御言葉を読み、自分へのメッセージが何かをさぐる。例えば、神の恵み、告白すべき罪、従うべき命令、ならうべき模範など。
- ③自分が神のメッセージにどうこたえるのかを祈る。感謝や信頼の表明、悔い改め、服従、献身など。
- ④自分の祈りだけでなく、できるだけ「祈禱課題」も祈る。

【月曜日】 ◆今週のすべての集会在祝福され、救いにつながるように祈りましょう。

サムエル記下第12章7節「ナタンはダビデに言った。『それはあなたです。イスラエルの神、主はこう言われる。「あなたに油を注ぎ、イスラエルの王としたのは私である。』」◆ナタンは預言者として登場する最初の人物である。預言者は神の言葉を預かり伝える役割をもっている。この時、王の前に出て、罪を指摘することができたのも神の力である。そしてダビデもまた、その告知に対し、子どもようになって悔い改めた。私たちもそうである。罪に無感覚になって過ごしていた者が、悔い改めをうながされることがある。その時にこそ、洗いざらい悔い改めよう。

●賛美 / 416 ●祈禱課題

- ◆昨日、礼拝に集えなかった人が恵みからもれないように。
- ◆この教会も世界宣教の一拠点であることを自覚し、重荷を持って祈れるように。特に共産圏、イスラム圏伝道が進むように。迫害にある宣教師のために。現地語聖書の翻訳が進むように。異端からの救出が進むように。台湾活水泉の活動のために。

【火曜日】 ◆教会のビジョンのため、将来の働きが祝福されるように祈りましょう。

サムエル記下第13章36節「彼がこう話し終わるやいなや、王子たちが到着した。彼らは声を上げて泣き、王も家臣たちも皆激しく泣いた。」◆ダビデは信仰の篤いすばらしい王であったが、うまく家庭を治めることができなかったようだ。それはエリヤサムエルにも言える。タマルとアムノンのも、なぜそのようなことが起こったのか。そのアムノンをアブシャロムが殺したことも防げたのではないが。ダビデは親としての証しができなかった。家庭においてこそ、信仰者の本質が問われる。家族に対して証しができるように祈っていこう。

●賛美 / 417 ●祈禱課題

- ◆日本福音同盟、日本福音連盟、聖化交友会、キリスト教各出版社、EHC、ケズィック、太平洋放送協会、F E B C、キリスト者学生会、日本国際飢餓対策機構、ワールド・ビジョン、いのちの水計画、総動員伝道、Hi-b.a.、日本国際ギデオン協会(聖書配布)、新生宣教団等の働きとスタッフのため。

【水曜日】 ◆宣教福祉事業が祝福されるように祈りましょう。

サムエル記下第14章25節「イスラエルの中で、アブシャロムほどその美しさを褒めそやされた者はなかった。足の裏から頭のてっぺんまで、非の打ちどころがなかった。」◆いわゆるイクメンであったアブシャロム。だが、ダビデが油そそぎを受けた時に主がおおせになったことを覚えているだろうか。「人は顔かたちではない。心がへりくだっていて神に従う者であるかどうか」が、神の人の基準なのである。結果、アブシャロムはそれが仇となり、高慢となり、殺されてしまう。へりくだって、心から忠実に歩ませてもらいたい。

●賛美 / 419 ●祈禱課題

- ◆新会堂が与えられるように祈りましょう。①バス通りに面した場所に良い土地が与えられるように②十分な資金が与えられるように③早期に建てられるように
- ◆宗教法人を取得できるように
- ◆伝道の拠点が祝福され、用いられるように。(まきば、小山宮下事務所、向陽町)

【木曜日】◆弱っている方々、病にある方々のために祈りましょう。

サムエル記下第15章6節「アブシャロムは、王に裁定を求めてやって来るイスラエル人すべてにこのように振る舞った。こうしてアブシャロムは、イスラエルの人々の心を盗んだ。」◆アブシャロムは父ダビデを批判すると同時に、自分だったらこのようにするのだがと言いながら、巧みに人心をつかみ、己にわいてきた野心をおさえようとはしなかった。アブシャロムが祈ったり、神に問う姿勢も聖書にはでてこない。ただ自分の思いだけで行動していた。確かに彼は有能であり、また周りにもよい部下がいたが、神の前にへりくだらなければ、その人の人生はおなしく終わる。

●賛美／420 ●祈禱課題

◆教会学校の成長と救い、青年の結婚、教会員の信仰の成長と家族の救いのため。

◆教会ビジョンのため（社会宣教事業、伝道所の開設、保養施設建設、会堂建築、納骨堂、宗教法人格取得、学生寮、高齢者住宅）、教会員から伝道者や献身者が与えられるよう、教会会計の祝福

【金曜日】◆礼拝出席平均が50名以上となり、受洗者が年間3名以上与えられるように祈りましょう。

サムエル記下第16章11節「私の身から出たわが子でさえ、私の命を狙っている。ましてこのベニヤミン人なら、なおさらのことではないか。呪わせておきなさい。主が彼に命じているのだから」◆アブシャロムのクーデターに、ダビデは着の身着のまま逃げた。助けてくれた者もあったが、サウル家の一族シメイはダビデを口汚くのしる。ダビデの部下が「殺しましょう」と言った時、ダビデは呪わせておくようにと指示する。不当な批判を受けても、そのままひたすら静観するのが最善の策である。自分が正しいのなら、神が汚名をすすいでくださるからだ。

●賛美／421 ●祈禱課題

◆この教会に聖霊の著しい働きがもたらされ、リバイバルが起こるよう。常に新来会者が与えられ、求道者、受洗希望者がもたらされて、教勢が祝福されるように。

◆土屋牧師、淳子師（牧師一家）、思乃扶師、石出師の働きのために。

◆老齢の方、病の中にある方々のいやしのために。

【土曜日】◆聖日に備え、健康が保たれ、出席しやすい天候が与えられるように祈りましょう。

サムエル記下第17章14節「皆、アルキ人フシャイの提案はアヒトフェルの提案より優れていると思った。これは主がアブシャロムに災いを下そうとして」◆アヒトフェルの策略は完璧で、たちまちダビデ陣は追い詰められていった。そのダビデの前にフシャイが現れ、窮地を救った。うまくアブシャロム陣営に入り込み、戦略会議にも参加できた。それだけでなく、そこで絶対的な信頼があったはずのアヒトフェルの案が退けられ、ダビデが生き延びられるフシャイの案が採用されたのだ。アヒトフェルは神のようであった。だが、ことを動かすのは神なのである。

●賛美／422 ●祈禱課題

◆子どもを含め、すべての人が礼拝を守れるように。あらゆる集会が祝福され、参加者が御言葉によって取り扱われるように。奉仕者が恵まれてご用にあたれるように。

◆ホームページが用いられるように。また礼拝動画が用いられるように。教会から出している週報や印刷物が用いられるように。

【日曜日】◆新来会者が起こされるように祈りましょう。

サムエル記下第18章9節「アブシャロムの頭がテレピンの木に引っかかり、彼は天と地の間に宙づりになったが、らばはそのまま走り過ぎてしまった」◆アブシャロムの髪の毛は、その容姿の美しさの中でも一番の武器であり、民衆の支持を得ていた。だが、その髪の毛があだとなって、戦死をすることになる。非常に象徴的な場面だ。人は、これができる、あれができると自分の能力を誇示し、また人を見下げたり、批判的な言動を繰り返すことがある。しかし、主が用いられるのは、容姿でもなく、能力でもなく、主の前にへりくだった人たちだけである。

●賛美／423 ●祈禱課題

◆この教会に連なるすべての方々が聖日礼拝を厳守できるように。聖書通読を続けられるように。御言葉を味わえるように。祈りに励めるように。ささげる恵みにあずかれるように。積極的に神さまから受けた恵みを語れるように。

◆受験生、就職活動者、試練にある者のために。



おやこでせいしよ

●きょうのせいしよ

【サムエルきじょう 18:8~9】

「サウルからのがれる」

(コリント一 10:13)

ダビデはゴリアトをたおしたことで、イスラエルのひとたちは おおよろこびです。いままでも かつやくしていた へいしよりも にんきがでてきて、ダビデをたたえる うたまで うたわれるようになりました。

「サウルおうは 1000 にんを たおしたけれども ダビデは 10000 にんを たおせる ゆうしゃだ」

それをきいた サウルは とても おこりました。じぶんが ダビデよりも したにみられて、みんなのにんきが ダビデにいていることがきにいりません。そして、このまま じぶんがダビデに おうさまの くらいを とられてしまうと おもったからです。

ダビデには サウルにかわって おうさまになろうなどと おもってもいません。それなのに、サウルおうに にくまれるようになったのです。

サウルは ダビデにむけて やりを なげて ころそうしたり、じぶんがら とおいところにおいやったり、そして、ヘペリシテじんと たたかいても、いちばん はげしい たたかいはしょに いくように めいれいしました。ダビデを てきのてで ころすためでした。

でも、ぎゃくに ダビデは どこにいても かちつづけ、にんきは うなぎのぼりです。サウルは くやくして たまりません。とうとう へいたいたちをしたがわせ じぶん で ダビデを ころすために、ダビデを おいかけ つづけていくようになりました。

そんなとき、ダビデは どのように すごしていたのでしょうか。

ダビデは サウルを そんけいしつづけました。それは かみさまがえらばれた ひとだからです。そして、けらいが サウルを ころそうとしても、それを しかるほどでした。

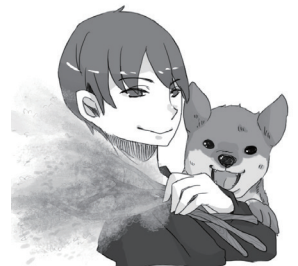
かみさまは、いじわるをされ、いじめられたダビデを まもり つづけてくれました。そして、ますます しゆくふくを あたえられたのです。

●かんがえてみよう

☆サウルは なぜ ダビデを ころすようになったのでしょうか。(サムエルきじょう 18:7~8)

☆ダビデが ことをひいていたとき サウルは なにをしましたか。(サムエルきじょう 18:11)

☆サウルから いじめられるようになったダビデは どうしましたか。(サムエルきじょう 19:2)



なみむ聖書

もじ独

あいているマスに、右の9文字のどれかを入れます。タテ列（9列あります）、ヨコ列（9列あります）、太線で囲まれた3×3のブロック（それぞれ9マスあるブロックが9つあります）のどれにも9文字のいずれかがはいりますが、文字が重なってはいけません。数独と同じ要領です。

だ
び
ご
は
み
を
か
わ
お

び		わ	を	み		は	す	で
	か		わ	す	び			を
み	す	を	だ		で	わ		か
		み				び	で	す
を	で	す	か	び			は	み
	は			で	す		か	
す		だ	で					
		で						だ
				を		で		び

ことばあそび

今週の聖書箇所の中に出てくる言葉です。それぞれを並び替えると意味が通る言葉になります。答えてください。

- ① しょうだいり
- ② ふねかいのん
- ③ わいるいれ
- ④ きものな

まちがいさがし

3つあるよ!さがしてね





牧師の 聖書 ななめ読み

「ホンモノを見分ける」

鑑定士で有名な中島誠之助さんのインタビュー記事を読んだ。気になる部分を抜粋した。

「ニセモノって言うのは人間の欲望から生まれたものだ。だから、人類の文明が始まって以来、存在していると考えている。…ではどうやったら、ホンモノとニセモノを見分けられるのか。教えて欲しいという質問をよく受ける。…実際この何十年もの間に染みついている『感覚』だから、誰にでも分かりやすく説明するのは難しい。ただ言えるのは、ホン

モノは最初から光を放っている。その光が見えるかどうかで、その人間の力量が試されている。…美術品の価値っていうものは時代や状況によって流動する。今まで全く取りあげてこなかったものの中に、将来、新しい美というものが出てくるかも知れない。…そういった変化についていけるかどうかも大事だろう。…感性を鍛える一つの方法は、できるだけホンモノを実際に見て、ホンモノに囲まれて生活することだと思う。」

ホンモノがホンモノであることがわかるためには、ホンモノを見つめ続けること。偽物を研究する必要はありません。ホンモノが分かれば偽物が分かる。御言葉は真実、ホンモノです。それを見続けることが重要なんです。

聖書ふれあい街歩き

●ミカ書に出てくる町

ミカはモレシエト人(出身)と紹介されています。同定されていませんが、ユダ南西部のシエフェラという肥沃な丘陵地帯にあったと考えられています。ミカはそこで農業に従事していたとされ、その虐げられている生活をうかがわせるような預言を語っています。

第1章には複数の町が出てきます。これらは、モレシエトの近隣の町であるとされ、ペリシテの町であるガト以外は、どこにあったのかわかっていません。

ではなぜ、そのような町が聖書に出てくるのでしょうか。「言葉遊び」のためです。神の裁きが及ぶ時、町の生き方まで変わってしまうのだとの警告です。①ガト(勝報を待つペリシテ側)→喜ばせないために「知らせるな ②ベト・レアフラ(塵の家)→塵に転がれ ③シャフィル(着飾った美しい町)→裸で恥じて、立ち退け ④ツアアナン(出て行く)→出て行こうとしない ⑤ベト・エツエル(安心の家)→嘆きの声上がる ⑥マロト(悲嘆)→その通りになる ⑦ラキシユ(堅固な町)→打ち碎かれる

⑧モレシエト・ガト(祝福)→離縁 ⑨マレシャ(支配)→征服される ⑩アドラム(避難所)→連れ去られる。

ななめ聖書 先週のこたえ

お	う	か	ち	む	た	ま	に	え
む	ま	に	お	え	う	た	か	ち
え	た	ち	に	ま	か	お	む	う
ち	え	ま	た	に	む	か	う	お
に	む	う	ま	か	お	ち	え	た
た	か	お	え	う	ち	む	ま	に
ま	お	え	か	ち	に	う	た	む
か	ち	む	う	た	え	に	お	ま
う	に	た	む	お	ま	え	ち	か

- ①なめらかないし
- ②ようしたんれい
- ③ちょうせん
- ④いしなげ



エフェソからマケドニアへ

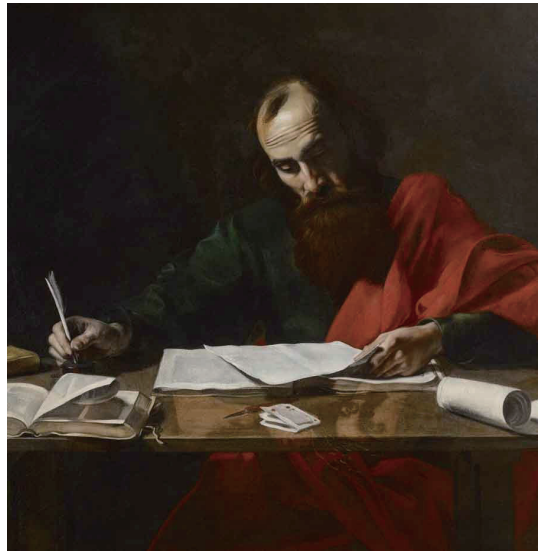
この騒動が収まった後、パウロは弟子たちを呼び集めて励まし、別れを告げてからマケドニア州へと出発した。

そして、この地方を巡り歩き、言葉を尽くして人々を励ました後、ギリシアに来て、そこで三か月間過ごした。

パウロは、シリア州へと船出しようとしていたとき、彼に対するユダヤ人の陰謀が起こったので、マケドニア州を通って帰ることにした。

同行した者は、ピロの子でベレア出身のソパトロ、テサロニケのアリスタルコとセクンド、デルベのガイオ、テモテ、それにアジア州出身のティキコとトロフィモであった。

(使徒言行録20:1~4)



手紙を書くパウロ

【コリントへの手紙】

パウロがエフェソに滞在した期間は、少なくとも二年に及びました。会堂で神の国について論じていた三ヶ月間(19:8)をだぶらせなければ、二年三ヶ月となります。

パウロがエフェソに来て間がなかった時期に、付け焼き刃のような祈禱をしていた祭司長の息子たちが悪霊に取りつかれている男に襲われ、それを機に、「主イエスの名」が崇められる出来事が起こります。皆、魔術の本を焼き捨てるという行動に出て、主イエスを信じる者たちが続々と起こされていくわけですが、それを見聞きしたデメトリオの騒動を引き起こすことにもなります。

この流れを見ていくと、デメトリオの騒動は、エフェソ滞在の前半に起こったのではないかとも思うのですが、「騒動が収まった後」、これを契機に移動を決意したと考えるならば、滞在の後半だったとも言えます。

実はコリントの手紙の中に「アジアで遭った苦難…耐えられないほどひどく圧迫されて、生きる望みさえ失い、…死の宣告を受けた思い」(二1:8)とあって、恐らくこの騒動を指していると思うのですが、そうだとすると、パウロがかなり危機的な状況としてとらえていたふしがあります。そこで、逃げるようにではないですが、移動しようと思ったとしても不思議ではありません。

いずれにせよ、パウロにとってじっくりと伝道することができた場所ではありましたが。滞在期間が長ければ、さまざまな情報もはいりやすくなってきます。伝達手段が限られている当時、相手の滞り場所がわかっているのと、移動中でどこにいるのかわからない、ではまったく状況が変わって

くるわけで、この時期にさかんに手紙のやりとりが行われていたはずですよ。

コリントの信徒への手紙もこのエフェソに滞在していた時に書かれたとされています。たとえば「五旬祭まではエフェソに滞在するつもり」(一16:8)とあり、「マケドニア経由で、そちらに行きます。マケドニアを通過した後、たぶんあなたがたのところに滞在し」(一16:5)との記述も、合致しています。おそらく、エフェソ滞在の後半(AD55年ごろ)だったでしょう。

ご存じのように、「コリントの信徒への手紙一」とされている手紙の前に、「以前の手紙」と呼ばれている「前の手紙」(一5:9)が存在しており、さらに、「一」と「二」の間に、「あのような手紙を…涙ながらに書きました」(二2:3、4)とある「悲しみの手紙」と呼ばれている手紙がありました(二7:8~9)。

世俗的なコリントにあった教会にどのような問題が起こっていたのでしょうか。

- ①内部分裂／パウロ派、アポロ派、ペトロ派、キリスト派と、主張し合っていた(一1:12)
- ②不道徳／特に性的な罪(一5章)
- ③礼拝の混乱／男女間の秩序の乱れや主の晩餐の不適切な執行(一11章)
- ④霊の賜物の混乱／異言や賜物の理解が不足し、無秩序になってしまった(一12~14章)
- ⑤パウロ批判／「話し方がつまらない」などと見下げ、他の指導者を受け入れた(二10~11章)

パウロはコリント教会に特別な思いを持っていました(一4:15)。問題を起こしても、自分がけなされても、愛を持って粘り強く指導し、悔い改めへと導いていったのです。

キリスト教まるわかり Q&A

◆何もわからないのですが。

必要なものはお貸しし、一つずつお教えいたします。また信仰の強要はいたしません。

◆礼拝とは何ですか。

私たちの悩みは神から離れていることに原因があります。礼拝で神を賛美し、祈り、御言葉を聞くことにより、人間のあるべき姿を取り戻していく、それが礼拝です。

◆献金とは何ですか。

神への献身を表すもので、お布施や聴講料、会費ではありません。本人の意志に任されており、あくまでも自由です。趣旨のわからない方はなさらなくても問題ありません。

◆聖餐式とは何ですか。

信仰告白をし、洗礼(バプテスマ)を受けておられる方のみになりますが、主イエスと共に生きていることを確認する儀式で、聖別された

パンとぶどう液をいただきます。

◆信者になるにはどうしたらいいですか。

自分の意志で主イエスの福音を信じ、洗礼を受けることにより教会員(信者)と呼ばれます。

◆キリスト教会は様々な教派があります。

大きく分けてカトリック教会とプロテスタント教会があります。プロテスタント教会は、設立された時代や地域、歴史的な背景によって成立が違うため、多くの教派がありますが、憎み合っているのではなく、互いの特色を認め合い、助け合っています。

◆にせのキリスト教会がありますか。

キリスト教の枠組みからずれている教えについて、私たちは異端と呼んでいます。代表的な団体には「エホバの証人」「モルモン教会」「世界平和統一家庭連合」などがあります。特に韓国系キリスト教活動にはお気をつけください。お困りの方は牧師までご相談ください。

2025年教会暦・年間行事

(#はその年によって変動します)

「教会暦」はキリストの生涯をたどりながら1年を過すために作られました。当教会では教会暦に、継承されてきた伝統的記念日に加え、守っています。

顕現節(1/6～#3/4)

降誕日(12/25)から12日後に東方の博士がキリストを礼拝した顕現日(1/6)から始まります。降誕されたキリストが世界の救い主であることを覚えて過ごします。顕現節の最終主日は受難の整えをされた変貌のできごとを覚え、変容主日(#3/2)として守ります。

四旬節(#3/5～#4/12)

前年に使用したしゅろの枝を灰にしてかぶり悔い改めを表した儀式(この教会では行いません)、灰の水曜日(#3/5)から始まります。レントとも呼び、主日を除いた復活日前日までの40日間、キリストの受難を覚えて過ごします。

四旬節に続く受難週(#4/13～4/19)は、主イエスの最後の1週間を覚える週で、エルサレム入城に際し、しゅろの枝を用いて歓迎したしゅろの主日(#4/13)から始まり、洗足と主の晩餐が行われた木曜日(#4/17)、十字架にかかれた受難日(#4/18)と過ごしていきます。

復活節(#4/20～#6/7)

キリストが死にかけて復活されたことを祝うイースター(復活日・#4/20)から始まります。春分の日からの最初の満月の次に来る日曜日と定められているので、祝日が毎年変動します。40日後のキリストの昇天(#5/29)を迎えたのち、復活節の最終主日(昇天主日#6/1)となります。

聖霊降臨節(#6/8～#11/29)

復活日から50日目、聖霊が使徒たちに降ったことを記念する聖霊降臨日(ペンテコステ・#6/8)から始

まり、三位一体主日(#6/15)では父、御子、御霊の働きを告白し、過ごします。最も長い節期となります。

待降節(#11/30～12/24)

救い主キリストの誕生を祝う備えをしながら、待ち望むアドベント(待降節)は、11月30日に一番近い主日から始まります。降誕を祝うクリスマスは12月25日ですが、クリスマス礼拝(#12/21)は、25日以前の日曜日を選んでをささげています。

降誕節(12/25～1/5)

イエス・キリストの誕生を祝う日(12/25)から始まり、顕現日前日までの期間を指します。

【記念日】

母の日(5/11・5月第二)
ウェスレー回心記念日(5/24・1738年)
花の日(子どもの日・6/8・6月第二)
父の日(6/15・6月第三)
ホーリネス弾圧記念日(6/26・1942年)
宗教改革記念日(10/31・1517年)
収穫感謝日(11/23・11月第四)

【当教会行事】

新年元旦礼拝(1月1日・水)
成人祝福礼拝(#1/14・1月第二)
聖書愛読週間(#3/23～29)
みふみの日(3月23日)
教会創立記念礼拝(3月最終主日/創立記念日3/27)
最後の晩餐集会(#4月17日夕)
召天者記念合同礼拝(#6/1・6月第二*今年は第一)
弾圧記念礼拝(#6月22日・26日前後の主日)
石出忠師記念礼拝(#7月6日・7月第一)
敬老祝福礼拝(#9/14・9月第三)
子ども祝福礼拝(#11/2・11月第一)
クリスマスイブ礼拝(12月24日夕・水)

教会紹介

●歴史

私たちの教会は、ジョン・ウェスレーを源流とするメソジスト(青山学院、東北学院など)の信仰を継承しており、メソジストの教職であった中田重治が1901年に創立したホーリネス教会の信仰を受け継いでいます。2022年3月27日に創立いたしました。

●教義

旧新約聖書66巻を誤りない神の言と信じ、唯一の正典として信仰生活の規範にしています。また三位一体の神を信じ、イエス・キリストによる以外に救いがないことを告白しています。特色は、下記に紹介する四重の福音を強調していることです。

【四重の福音】

四重の福音は、長老教会の牧師A. B. シンプソンが提唱したものを、ホーリネス教会の創設者中田重治が自らの信仰に基づいた理解を加え、福音宣教の際に掲げた教えです。

人間の幸せは神と共に生きることで実現するのですが、神を認めず生きているため、むなしく日を過ごしているのが現実です。しかし、イエス・キリストが十字架によって神と人との絆を回復してくださったのです。これが福音です。この福音を信じることで、人間は本来もっていた真の幸いを覚えながら、充実した人生を送れるのです。

中田は、聖書に書かれてあるこの福音をわかりやすく語るべく、前述の提唱にある新生、聖化、神癒(しんゆ)、再臨(さいりん)の4項目に基づいて、以下のようにまとめました。

◆**新生** キリストの十字架と復活を信じ、新しく生まれ変わる。これにより、天に住まう者のように、日々喜びが与えられる。(コリントの信徒への手紙2:5:17など)

◆**聖化** 神に属する者であるとの自覚が与えられたことで、自己中心に生きていた心が砕かれ、同時に神中心の生活を求め始め、神のきよさに近づくこと。(ガラテヤの信徒への手紙2:19～20など)

◆**神癒(しんゆ)** 肉体を持っているがゆえに弱る私たちが、神のあわれみにより、病い、そして死の恐怖にも打ち勝つ力が与えられ、苦しみから解放されること。(出エジプト記15:26など)

◆**再臨(栄化)** キリストが再び地上に来られること。その時、死んだ聖徒たちは復活し、生ける信徒は死を経験せずに天に挙げられる。(コリントの信徒への手紙1:15:51など)

教会の信条

さがみはら きょうかい いか しんじょう かか
相模原ホーリネス教会は以下を信条として掲
げています。

わたし
私たちはイエス・キリストを救い主として信じ
ています。

しゅ かみ くに ちか く あらた 改
主イエスは、「神の国は近づいた。悔い
めて福音を信ぜよ」と宣言されてから約3年間、
ひとびと おし とお かみくに めぐみ
人々にその教えとみわざを通して神の国の恵み
を明らかにされ、そののち、わたしの罪を負って、
じゅうじか な と
十字架にかかれ、あがないを成し遂げ、神の
くに すく みち ひら
国にはいる救いの道を開かれました。

この主イエスの救いへの招きに応じて神の
くにぞく いもの わたし せいしょ
国に属して生きる者となった私たちは、聖書が
しゅうまつしめ じだい しめい まつと
終末と示しているこの時代に、使命を全うすべ
く、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と
しんこうこくはく もの とも かみ くに かぎ あた
信仰告白した者たちと共に、神の国の鍵を与
えられた教会の一員とされたことを覚えながら、
せいらい たす いか せんじょう あゆ
聖霊の助けによって以下のことを宣証しつつ歩
みます。

- ①キリストによる完全な救い
- ②真心からささげる礼拝
- ③キリストをかしらとした教会の交わり
- ④神の憐れみによるいやしと慰め
- ⑤信仰生活がもたらす祝福
- ⑥世界にも目を向けたとりなしの祈り
- ⑦神の愛に基づく社会への貢献

MEMO

単立 相模原ホーリネス教会

創立 2022年3月27日

主任牧師 土屋 和彦 牧師 石出 佳代子 牧師 土屋 淳子

252-0205 相模原市中央区小山 3-31-3

TEL&FAX 042(772)8910 e-mail church@bethels.info

ホームページ <http://www.bethels.info/>

